

○世の救い主と出会った人々

1. サマリヤの女(27-30)

▶「不思議に思った」

※マタイ 8:27

「人々は驚いてこう言った。「風や湖までが言うことをきくとは、いったいこの方はどういう方なのだろう。」」

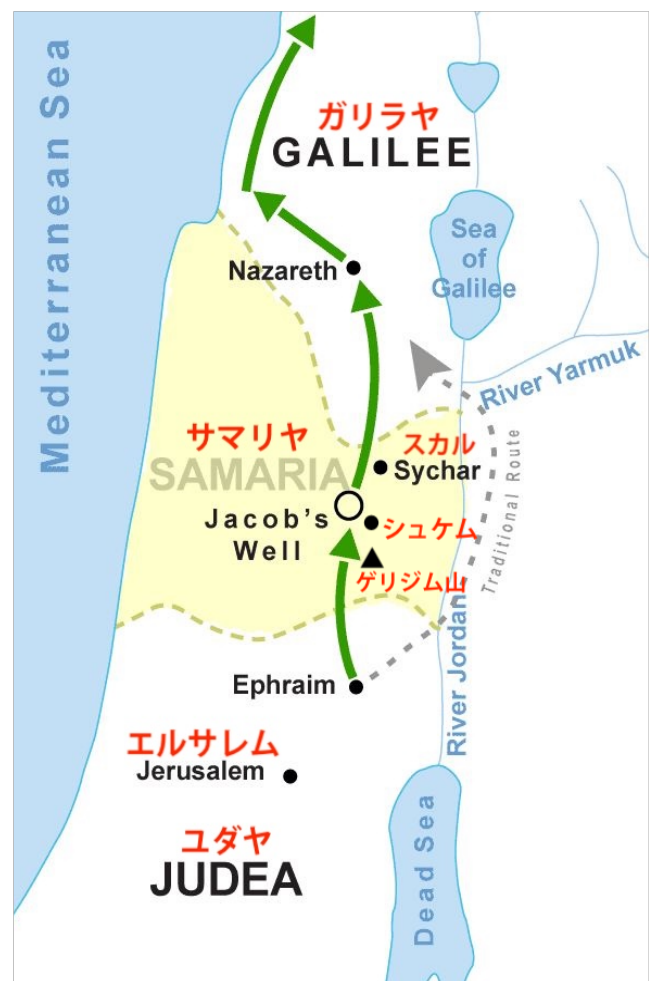
●当時あった様々な掟や格言

「通りで女性と、たとえそれが自分の妻であろうと、話してはならない。」

「男が女性との会話を長引かせるたびに、彼は自らに災いをもたらし、律法から遠ざかり、遂にはゲヘナに落とされる。」

※1 ペテロ 3:15

「むしろ、心の中でキリストを主としてあがめなさい。そして、あなたがたのうちにある希望について説明を求める人には、だれにでもいつでも弁明できる用意をしておきなさい。」



2. 弟子たち(31-38)

※マタイ 4:4

「イエスは答えて言われた。「『人はパンだけで生きるのではなく、神の口から出る一つ一つのことばによる』と書いてある。』」

※ヨハネ 17:4

「あなたがわたしに行わせるためにお与えになったわざを、わたしは成し遂げて、地上であなたの栄光を現しました。」

※1 ペテロ 4:2

「こうしてあなたがたは、地上に残された時を、もはや人間の欲望のためではなく、神のみこころのために過ごすようになるのです。」

※マタイ 9:37-38

「そのとき、弟子たちに言われた。「収穫は多いが、働き手が少ない。だから、収穫の主に、収穫のために働き手を送ってくださるように祈りなさい。』」

3. 町の人々(39-42)

※1 コリント 2:4

「そして、私のことばと私の宣教とは、説得力のある知恵のことばによって行われたものではなく、御霊と御力の現れでした。」

「イエスは、神からの言葉を伝えるために来た単なる『預言者』ではありません。人の心を見抜く不思議な能力を持つ単なる『心理学者』でもありません。確かに、サマリアの女とのやり取りにおいて、そのような能力を明らかにされましたが、それ以上のものを示されました。イエスは単なる『模範』でもありません。人々に「こう生きるべきだ」と道を示すために来たものではありません。偉大な模範も、それに従う力が自分にはないことに気づけば、それはただ人を落胆させ、挫折感を与えるものとなるでしょう。イエスは『救い主』でした。人々を邪悪で絶望的な状況から救い出し、過去に縛りつけていた鎖を断ち切り、未来へと向かう力を与えました。サマリアの女は、事実、イエスの救いの力の素晴らしい例です。彼女が暮らしていた町の人々は、間違いなく、彼女が更生不可能な人物と見なしていたでしょう。彼女自身もまともな生活を送ることはできないと思っていたでしょう。しかし、イエスは来られ、彼女を救われました。過去から解放し、新しい未来を開かれました。世の救い主ほど、イエスを表現するのに相応しい称号はないのです。」(ウィリアム・バークレー)